

〔駐村研究員だより〕

農外からの新規就農者を迎え入れて

—— 浜中町就農者研修牧場 ——

野 田 哲 治

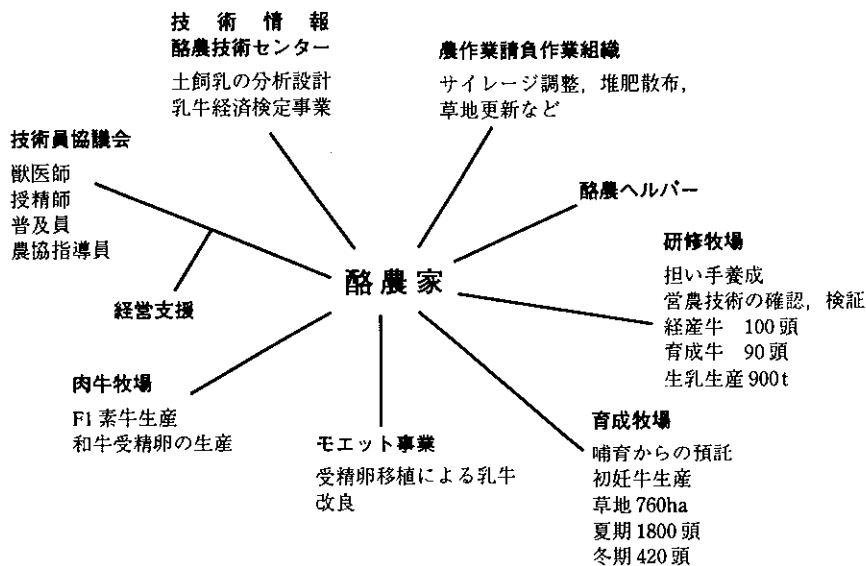
浜中町は北海道の東部太平洋岸に位置し、人口 8,000 人弱の漁業と農業の町で、今話題になっている沖縄の米軍基地の移転先にあげられている「矢臼別演習場のある町」です。夏は冷涼で海霧が発生し普通畑は不向きであり、牧草を作り牛乳の生産と乳牛個体販売だけしかできない酪農に特化した地域です。

地域の酪農の規模は草地面積約 15 千 ha、戸数 223 戸、乳牛頭数 22 千頭、生乳生産 82 千 t で、平均 1 戸当たりの経営は草地面積約 55 ha、乳牛頭数 100 頭、生乳生産 360 t の大型家族経営で法人経営はありません。

地域では農協を中心に大型酪農経営を支える支援システム（図参照）を構築しており、その一環として農外からの新規就農者を養成する研修牧場があります。

昭和 44 年からの国営総合農地開発事業などで 7 千 ha が造成され、急速に発展してきましたが、農家戸数は昭和 45 年 390 戸、63 年 264 戸、平成 3 年 234 戸と年々減少しています。他産業のない過疎地なので離農即離村となり、経営規模が大きいだけに 1 戸の離農が地域経済活動に与える影響は大きく、また離農跡地の吸収が出来ず農地の流動化が難しく、その上に畜舎、住宅などが無価値となってしまう。人口の減少で集落機能、学校や医療機関など地域社会の維持・構成も難しくなります。

このような背景で将来とも 200 戸以上の酪農家の「塊」がなければ地域としての酪農は発展していけないとして、昭和 58 年に農外からの新規就農者を組織的に迎え入れはじめ



家族経営を支える支援システムを構築している

図 浜中町の酪農支援システム

ました。各地で実習をした即就農のできる家族を招聘してきましたが、そのような人は年々減少し、その反面実習経験のない人からの農業をやってみたいとの希望が多くなり、白前で養成しなければ就農者を確保できない状況になってきました。

町内では未経験の人、特に家族持ちの実習受入先がなく、また独身者では配偶者との出会いの機会が少なく就農まで結び付きにくいなどから、「家族ぐるみで実習のできる牧場を作ろう」と平成3年に研修牧場が発足しました。新規就農者の受入状況は、昭和58年に初めて就農してから今までに12戸、現在研修中は3戸、酪農ヘルパーなどで待機中は2戸です。出身地は道内2戸、道外15戸と道外からが多く大半が大都市圏からです。農家出身3戸、農業系大学4戸、他産業8戸となっています。

就農者の養成は、農家の住込実習で色々な農家の知恵を学ぶことが一番良いのですが、家族丸ごとの住み込みは難しいので主に独身者に勧めています。家族持ちは研修牧場で研修し、農家実習（研修期間中に6カ月間位）はカリキュラムに取り入れ、「知恵」を学ぶように努めています。

夫婦単位で受入れし浜中町に就農することを条件にし、3年をめどに研修し就農することを目指します。短期間の促成栽培なので実学（農作業）をとおして技術を修得し、座学は月1回程度です。

5年間に3組が就農しましたが、研修の現状は乳牛を飼養するのに必要最低限の技術を習得させるのがようやくで、研修中に経済、経営面の修得は非常に難しいと感じています。研修中はあくまでも研修であり限界があり、研修がマンネリにならないくらいの期間が良いと考えます。いくら長い研修でも「就農1カ月の経験」にはかなわないからです。

10数戸を迎え入れてきたことによって、就農先の隣近所の酪農家は「必要な応援」（これなくしてはうまくいきません）ができるようになったこと、酪農を支える支援システムが機能していること、技術者（獣医師、授精師、普及員、営農指導員）が集団として新規就農者を育てられる「力」を習得できたことなど、地域としてのソフトが新規就農者の人たちと一緒に作り出されてきています。

このようなことができるようになったことが地域にとって一番の成果であり、今後の明るさへとつなげられる事と思っています。

浜中町への就農案内をインターネットで行っています。お金は役場が出しましたが企画、取材、編集からホームページの作成まで新規就農者の人達が行っています。生の声が聞けますのでアクセスしてみてください。

アドレス

<http://city.hokkai.or.jp/~milkfarm/>

Eメール milkfarm@hokkai.or.jp

（北海道浜中町・浜中町農協）